



高松宮記念賞
かんしつらでんかみきりむしご
乾漆螺鈿天牛箱
しんたにひとみ



文部科学大臣賞
しほりぞのほうもんぎ ろくえいのあと
絞り染訪問着「緑影の迹」
小倉淳史



日本工芸会会長賞
せんびようきかもんはなれ
線描幾何文花入
森田由利子



日本工芸会奨励賞
ろうがたちゅうとうがき はやせ
蠟型鍍銅花器「早瀬」
高橋阿子



日本工芸会奨励賞
もくしんとうそごみん うんきん
木芯桐塑胡粉「雲錦」
藤田美智子



日本工芸会新人賞
ろうがたみきわけほち
蠟型吹分鉢
山崎誠一

第65回

日本伝統工芸展 京都展

2018年10月17日(水)→22日(月) / 京都高島屋7階 グランドホール

ご入場時間=午前10時~午後7時30分(午後8時閉場) ※最終日10月22日(月)は午後4時30分まで(午後5時閉場)

入場料<税込>= 一般500円(300円) / 大学生以下無料

主催=京都府教育委員会、京都市、NHK京都放送局、朝日新聞社、日本工芸会 後援=京都府、京都市教育委員会 協賛= **Panasonic**

※()内は前売り及び団体10名様以上の割引料金。前売券は京都高島屋7階チケットカウンターにて9月17日(月・祝)から10月16日(火)までお求めいただけます。

※当催については、「障がい者手帳」をご提示いただいたご本人様、ならびに、ご同伴者1名様まで入場無料とさせていただきます。

※安全のため、小学生以下のおこさまは必ず保護者の方ご同伴でご入場ください。

※ワイラトサービス：午後6時から半額。

日本工芸会ホームページ <http://www.nihonkogeikai.or.jp/>

 **Takashimaya** KYOTO

TEL (075) 221-8811

キリトリ線

ご入場
割引券

第65回

日本伝統工芸展 京都展

●入場料<税込> 一般500円(400円) 大学生以下無料
●本券で2名様まで()の割引料金にて、ご入場いただけます。

第65回

日本伝統工芸展 京都展

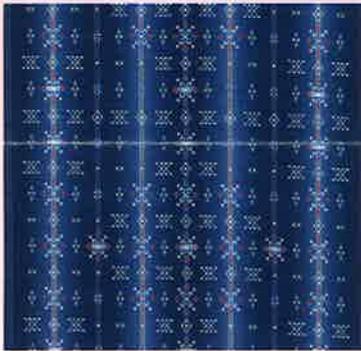
2018年10月17日(水)→22日(月)
京都高島屋7階 グランドホール
ご入場時間=午前10時~午後7時30分(午後8時閉場)
※最終日10月22日(月)は午後4時30分まで(午後5時閉場)



日本工芸会総裁賞
四分一象嵌打出銀器 前田 宏智



東京都知事賞
黒柿蘇芳染嵌荘箱「西方の風」 渡邊 晃男



NHK会長賞
花織帯「クリスタル」 楠 光代



朝日新聞社賞
切金螺鈿箱「青麦」 金城 国彦



日本工芸会保持者賞
櫻拭漆鉢 川口 清三



日本工芸会奨励賞
染付金魚鉢 小枝 真人



日本工芸会奨励賞
友禪訪問着「雨上がり」 菅原 高幸



日本工芸会奨励賞
有線七宝花瓶「躍動」 池田 貴普



日本工芸会新人賞
紬織着物「切子」 平 恵子



日本工芸会新人賞
合わせ櫛目花籃「祥風時雨」 久富 夢庵

我が国には、世界に卓絶する工芸の伝統があります。伝統は、生きて流れているもので、永遠にかわらない本質をもちながら、一瞬もとどまることのないのが本来の姿であります。伝統工芸は、単に古いものを模倣し、従来の技法を墨守することではありません。伝統こそ工芸の基礎になるもので、これをしっかりと把握し、父祖から受けついで優れた技術を一層錬磨するとともに、今日の生活に即した新しいものを築き上げることが、我々に課せられた責務であると信じます。昭和25年、文化財保護法が施行され、歴史上、若しくは芸術上特に価値の高い工芸技術を、国として保護育成することになりました。私どもは、その趣旨にそって、昭和29年以来陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門にわたり、各作家の作品を厳重鑑査し、入選作品によって日本伝統工芸展を開催してきました。

このたび、第65回展(平成30年度)を開催し、広く人々の御清鑑を仰ぎ、我が国工芸技術の健全な発展に寄与しようとするものであります。重要無形文化財保持者、受賞作家、近畿在住作家の作品を中心に、入選作品290余点を一堂に展覧いたします。

■ 列品解説

- 10月17日(水) 午後2時 陶芸 神農 巖
- 18日(木) 午後2時 諸工芸 渡邊 明
- 19日(金) 午後2時 漆芸 北村 昭斎
[人間国宝(重要無形文化財保持者)]
- 20日(土) 午後2時 金工 角谷 征一
- 21日(日) 午後2時 染織 村上 良子
[人間国宝(重要無形文化財保持者)]
- 午後3時 木竹工 村山 明
[人間国宝(重要無形文化財保持者)]
- 22日(月) 午後2時 人形 青江 桂子

■ 特別企画 受賞作家が自作を語る

各日午前11時から

- 10月18日(木) 陶芸 森田 由利子
- 19日(金) 金工 山崎 誠一
- 20日(土) 漆芸 したに ひとみ
- 21日(日) 染織 小倉 淳史
- 22日(月) 金工 高橋 阿子

■ 特別展示 わざを伝える「鍛金」

文化財保存事業報告



第 65 回日本伝統工芸展入選作品 截金硝子花器「水鏡」

サイズ：高さ 9.1×直径 25.5(cm)

技法：截金、キャスト、融着、研磨

水面を覗きこんだ時に水に映った姿。

風が吹いて、または雨が降って、魚が飛び跳ねて…。水面が波立ち、姿はかき消されてしまいます。水面に静寂が戻った時に映った姿は、もう先ほどのものと同じではありません。

この瞬間も瞬く間に過去になり、事象は刻一刻と変化していきます。だからこそ輝く「いま」なのだと思います。

底面からの器の立ち上がり角度を広く削り出すことによって、器全体が光を溜め込み、輝くように工夫しました。

上面の凹みは、水を溜める用途と、ガラスの存在を消し、視線を作品の奥へと誘い込む効果を兼ねています。下から覗きこむと、この凹みに截金文様が複雑に映り込んで大変美しいです。ぜひ様々な角度からご覧いただけますと幸いです。